

第 1 編

火 消 制 度 の 誕 生

古来、人類が火の存在を知り利用することを覚え、さらに火をおこす事を覚えたことは、人類最大の発明といえよう。

人類の文化と文明の追求は、石油時代の到来とともに、その姿を大きく変え、さらに原子力時代への突入は、社会の様相を一変させていった。

大都市の過密化、地域開発の波は、横の空間を埋め尽くしながら、縦の空間へと伸びていく。さらに、山や海も開発という名の下に一大工業地帯へと変貌を遂げていった。

しかし、その一方で、我が国における社会構造の成熟化や科学技術の高度化に伴う、建築物の高層化・深層化やその使用形態の複雑化、少子・高齢化の急速な進行等による社会情勢の変化によって、各種災害事象は複雑多様化と共に大規模化の様相を強め、そこに犯罪、火災、災害、事故、テロ等の土壌が形成され、未知の災害が生まれ育っていく。

また、地域規模における気象の変動による風水害や日本列島の地殻変動の顕在化に起因する地震災害に代表される大規模な自然災害による影響は、地域社会全体における安全を脅かす大きな脅威となっている。

我が国の消防は、地域に密着した自治体消防として発足以来、半世紀が経過した。この間、関係者の努力の積重ねにより、制度、施策及び施設等の充実強化が図られ、国民の安全確保に大きな役割を果たしてきた。今後も、国家的視野に立った消防を構築し、それぞれの災害発生を抑止するため、日々対策の手立てを講じなければならない。

常に脅かし続ける未知への災害に立ち向かうために。